

2018年 春号

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

HEARTFUL

はーとふる

特別企画
座談会

「提唱50周年を迎えるにあたつて
—明るい社会づくり運動の未来を語る」

提唱50周年企画

「Meishaアーカイブ～50年の歩み～」

|連載|

被災地レポート 「わすれない、いつまでも」

第16回 未来に繋げていくために——ぼくらの復興支援「いわて結っこ盛岡」の活動

「世界の現場から日本が見える」(5回)

提唱50周年を迎えるにあたって



明るい社会づくり運動の未来を語る

来年は、「明るい社会づくり運動」(以下、明社運動)が提唱されてから50年になります。これまで多くの人の努力によって明るい社会の実現に向けて、奉仕活動、社会活動、平和活動など地域に根ざした活動を展開してきました。今号では、これまでの歩を振り返るとともに、今後、どのように歩んでいくのか、4人の方に語り合っていただきました。

【出席者】 砂川敏文氏(「特定非営利活動法人明るい社会づくり運動」理事長)
沼田壽雄氏(「特定非営利活動法人明るい社会づくり運動」常務理事)
丸本 大氏(「明るい社会をつくる国立市民の会」事務局長)
永原伸一郎氏(「明るい社会づくり運動いしかわ」事務局長)

【司会】 原 良次氏(「特定非営利活動法人明るい社会づくり運動」事務局長)

沼田 明社運動がスタートしたころは、奉仕の心を育てるとか、善意の心を育てるということがキヤッチフレーズでした。さらに、人間のもつている明るさを引き出していく縁づくり、場づくり、環境づくりという考え方がありました。

人間がもともとついている明るさをどう表現し、引き出していったらよいのか……。そのさまざまな手段として事業やイベントがあるのです。清掃活動はきれいにするものですが、その行動をすることによってごみを拾うという心を養うことにつながりました。

永原 設立当初は、運営が面倒なことが多かつたことを思い出しますね。賛助会員の集いのハガキを出すだけでも大変でした。また、フォーラム事業の開催

これまでの歩みを振りかえって――

司会 来年は提唱から50年という大切な節目を迎えてます。まず、明るい社会づくり運動の提唱について、これまでの運動を振り返るとともに、どのように捉えていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。

永原 私は、全国明社がNPO法人を設立した平成13年に、石川県明社の事務局長を仰せつかり、まさに青天の霹靂でした。委員長は93歳で、60歳ぐらい年上の方でした。地域の方たちが提唱者の理念に共感し、清掃とか献血とか、子どもたちの支援活動など、名譽とかお金ではなく、草の根で取り組まれている姿に驚きました。そして、明社運動は地域の人たちに声をかけ、笑顔で挨拶する。美味しい煮物ができたら近所のおじいちゃん、おばあちゃんにおすそ分けをしてあげるとか。これが明るい社会づくり運動なんだと教えていただきました。

沼田 明社運動がスタートしたころは、奉仕の心を育てるとか、善意の心を育てるということがキヤッチフレーズでした。さらに、人間のもつている明るさを引き出していく縁づくり、場づくり、環境づくりという考え方がありました。

人間がもともとついている明るさをどう表現し、引き出していったらよいのか……。そのさまざま

ます。清掃が目的ではなく、そこに参加してくれる人が、そうした行動を起こせる気持ちを引き出していくことが、明社運動に大きな意味があると思います。行事をとおして、実は人間が本来、もつていていくことが共通の目的ということですね。

司会 全国の地区明社のみなさんが取り組まれている活動はさまざまです。その活動をとおして、人間が本来もつている明るい心、善意の心を引き出します。行事をとおして、実は人間が本来、もつていていくことが共通の目的ということですね。

丸本 私ども^{国立明社}は、昭和55年に設立しました。

実は、39歳のときにサラリーマンを辞めて独立しましたが、その後、3年後に明社を立ち上げることになりました。地元の牛乳店を営んでいた方と私の二人で、まず準備委員会を作りました。地域の学校のPTA会長をやつておられた建長寺派のご住職に会長をお願いし、4、5人の有識者の方々と毎月1回、勉強会を開催するようになりました。半年ぐらいたつて盛り上がりてきて、「設立しよう」ということになりました。設立する前の準備会は福祉会館を借りて、地元紙の記者に連絡して集まっていた

だけで取り上げてもらいました。それで8月に総会を開催し、9月に設立しました。

では、今の若い方は、地域の課題に無関心なのでしょうか。そうではないと私は確信しています。東日本大震災の時の多数の献身的な青年ボランティアの姿を見た感想では、もしかしたら私達世代より、困っている人の役に立ちたいという思いは強いのではないかと思うのです。私たちが後継者不足で悩むのは、地域の課題と青年のニーズのマッチングが上手くいっていないだけかもしれません。青年層におもねるのはなく、青年の「人の役に立ちたい」という思いに對し、この運動体がどのような場を提供できるかではないでしょうか。

変わらないでいる為には、変わらなければいけない事もあります。明社運動が未来に歩んでいくためには、かを考える良い機会にすることが大事なことだと思います。

私は、この6月で全国理事の任期を終了いたします。今後は、地元明社に集中した運動をさせていただきます。全国の皆さん、これからも宜しくお願ひ致します。

では、今の若い方は、地域の課題に無関心なのでしょうか。そうではないと私は確信しています。東日本大震災の時の多数の献身的な青年ボランティアの姿を見た感想では、もしかしたら私達世代より、困っている人の役に立ちたいという思いは強いのではないかと思うのです。私たちが後継者不足で悩むのは、地域の課題と青年のニーズのマッチングが上手くいっていないだけかもしれません。青年層におもねるのはなく、青年の「人の役に立ちたい」という思いに對し、この運動体がどのような場を提供できるかではないでしょうか。

変わらないでいる為には、変わらなければいけない事もあります。明社運動が未来に歩んでいくためには、かを考える良い機会にすることが大事なことだと思います。

私は、この6月で全国理事の任期を終了いたします。今後は、地元明社に集中した運動をさせていただきます。全国の皆さん、これからも宜しくお願ひ致します。

耀メッセージ



提唱50周年を迎えるにあたって

明るい社会づくり運動 理事

萩谷 岩央

耀メッセージ 萩谷岩央(明るい社会づくり運動 理事)

- 1…… 特別企画 座談会「提唱50周年を迎えるにあたって」――明るい社会づくり運動の未来を語る
- 6…… 50周年企画 「Meishaアーカイブ～50年の歩み～」
- 8…… 被災地レポート「わすれない、いつまでも」 第16回 未来に繋げていくために――ぼくらの復興支援「いわて結っこ盛岡」の活動
- 10…… われら明社人
- 12…… 揭示板 子ども支援レポート「クリスマス会を開催」 宮城県仙台市・落合復興住宅子ども会
- 16…… 世界の現場から日本が見える JVC代表理事 谷山博史 ごみ拾いキャンペーンのご報告

Contents

はーとふる 2018年春号

目次

いま、気づくこと――

くださいましたが、その活動の背景には、「人の心を育てていく」ということを軸に置いて明社運動を歩んでいきたいと思つています。それでも最近は、それをもう少し易しく表現にしたらどうかということで、現在は「笑顔と心をつなぐネットワーク」が運動の理念なんだということで認識されてきているのではないかでしょうか。

砂川 北海道・帯広市で市長の職に就くまで、明社運動を知りませんでした。明社運動は市内にあるさまざまなボランティア団体の一つにすぎないと思つていました。ただ、提唱者のお話を読ませていただき

などにも時間をとられました。当時は、全国明社もNPO法人になつたばかりでしたからね。私もまだ若かつたし、無我夢中でした。

司会 当時は内閣府の認証のNPO法人で、報告資料の作成など事務量が多くつたことでしょう。内閣府へは、全国明社が取りまとめて報告していましたが、平成19年に東京都認証になりましたので、各地の明社のなかにもそれぞれの地域で認証をとったところもあります。組織的にもさまざまな変遷がありました。

沼田 「明るい社会づくり運動つて何をする組織ですか?」という方もいらしたと思います。きっといまもいらっしゃると思います。

活動は献血や清掃活動などを地道に行ってきて

で取り組むようにしました。ですから最近は、共催事業が主です。

司会 明社運動を進めていくうえで、時代の流れとともに変化せざるをえないものがあります。全国明社では、平成26年度の都道府県会議で「3つの方針」を打ち出しました。これについてお話をお聞きしたいと思います。

砂川 「3つの方針」については、平成26年に今後の明社の具体的な活動をどうすればいいかということを議論しました。それまでの取り組みの成果や経験の上に立ちながら、社会の状況の変化などを踏まえて「3つの方針」が打ち出されたのです。明社運動を長く、効果的にみんなで一緒にやっていくためには、意識をどうもつていけばいいのか、あらためて確認する作業だったと思います。そして、あらためて提唱50年を前にして明社運動の方向性をしっかりと共有して、それを各地区明社に理解していただき

まず、「3つの方針」を支軸に、楽しく推進していくほしいと願うものです。つまり、やりやすく、進めやすいように運動が歩んでいくためにこの方針が打ち出されたのだと思います。全国の地区明社の推進している様

く」とだと思います。

まず、「3つの方針」について、行政との関係ですが、行政は市民が住みやすくするためにあるので、明社運動と方向性は同じです。ですから、明社は行政とパートナーシップでやつていてけるはずなんですよ。行政は市民協働のまちづくりついうじゃないですか。そういう気持ちでやっています。市民参加の街づくりを地道に取り組むことで行政から信頼をうけ、頼られる存在になります。そうしたなかで、しっかりと信頼関係を築いていくことです。

三つ目は地域社会にあった活動をしながら地域に貢献したいという個人や団体に実践の場を提供していくことです。これは提唱者のお言葉にあるように、誰もが善意の心をもっているのだから、それを発露する場を提供していくのが明社の大きな役割の一つということです。

「みなさん、どうですか? 一緒にやりませんか」と呼びかけることが大切なのです。

考え方としては、三つをいつぶんにやろうというのではなくて、このなかの二つを取り入れてやつてみるとよいかもしません。また、チャリティーのコンサートを開催するにしても、地域の会場をお借りすると思います。

そうした場所の提供をしてくれた組織などとタ

丸本 私どもは行政と協力しあう団体だと受け止めています。ですから、行政の方が、「今度、こんなことをしたいのだけど一緒にやつてくれませんか」と言つてくださいます。地元のさまざまな組織と協働で行うイベントなどでも、明社が緩衝材になるよう心がけています。

砂川 明社運動は、明るく住みやすい地域にしようとすることです。それは、行政の目的とも重なります。立場ややり方は異なりますが、行政と協力してやつていくというのは、正しい方向だと思いません。いろいろな市民からの情報も入りますから、行政に苦言を呈することもありますが、やはり日頃からの信頼関係が大切ですね。

丸本 いちばんの問題は高齢化ですね。後継者を育成してこなれたことを反省しています。事業をただいてきましたが、そのメンバーのほとんどが60代、70代です。何をするにしても労力が足りないのです。ですから、私も外に目を向けて、ボーリスカウトやガールスカウト、若い世代のいる組織と協働



沼田壽雄(ぬまた・としお)
「特定非営利活動法人明るい社会づくり運動」常務理事



砂川敏文(すながわ・としみ)
「特定非営利活動法人明るい社会づくり運動」理事長



沼田
「3つの方針」を支軸に、楽しく推進していくほしいと願うものです。つまり、やりやすく、進めやすいように運動が歩んでいくためにこの方針が打ち出されたのだと思います。全国の地区明社の推進している様



丸本 大(まるもと・まさる)
「明るい社会をつくる国立市民の会」事務局長

砂川 「高齢者」が大切ですね。65歳から前期高齢者。75歳からは後期高齢者といいますが、個人差がありますから年齢だけでは割り切れません。なか

永原 人材協力のお願いや情報交換など、全国の地区明社とキヤツチボールするような形で呼びかけをし合えるといいですよね。これも全国明社のネットワークを活用できるといいのではないかと……。たとえ小さな力でも、ネットワークを生かしていけば、何かを変えることや実現させることもできるのでは、ないでしょうか。

沼田 私は、地区明社のなかの光輝くん、あるいは
ちょっととした善意の行いをしている人を称賛してい
くことも、明社運動としてはとっても大事なことで
はないかと考えました。街の中で光り輝いている人
を称賛していく顕彰運動などはどうかと……。そ
ういったことが、明社運動の柱になっていくといので
はないかと思います。



原 良次(はら・りょうじ)
「特定非営利活動法人明るい社会づくり運動」事務局長



永原伸一郎(ながはら・しんいちろう)
「明るい社会づくり運動いしかわ」事務局長

いでしょうか。協働という意識をもつことが大事です。そうした認識に立つてみると、さまざまな組織と協力関係で成り立っているということで有難いといふ気持ちも起きます。

丸本 明社運動に参加して心が豊かになつたとか、性格が変わりましたよという、プラス^{アルゴ}ができたらうれしいですね。心の転換になるような明社運動であります。

司会 「3つの方針」は、現在に合わせて打ちだされたものですが、その精神は、もともと提唱者のお考えと同じだということですね。提唱の精神を踏まえ、今後の運動は、意識を変えて、徹底していくことではないかと思いますが……。

永原 石川県の明社では、『明るい社会づくり』とい
う広報誌を季刊で編集し、発行しています。また、
金沢明社では、冬の行事にはお祭りで焼き芋を作

司会 「3」の方針は現在に合わせて打ちたぎれたものですが、その精神は、もともと提唱者のお考えと同じだということですね。提唱の精神を踏まえ、今後の運動は、意識を変えて、徹底していくことではないかと思いますが……。

して全国ネットで活動を展開できるといいですね。

国内では、2013年に石川県金沢市内で立ち上がり始めたのが最初です。例えば「ゴミはいつ捨てればいいかわからない」という方は、登録するとスマホにその地域のゴミ収集日が表示されます。いま、日本でも広がってきています。私はこれを明社の活動に活用できないものかと、シビックテックの催し物に参加して勉強しています。

り、夏の行事ではソフトクリームを安く売つて義援金を寄付させていただいています。そうした活動をしながらも、今後は、シビックテックを活用していくことも必要なことではないかと考えています。

シビックテックとは、シビック（市民の、みんなの）とテック（テクノロジー）を合わせた言葉で、テクノロジーを活用しながら自分の身の回りの課題を、自分たちで解決していくこうという、地域のさまざまな課題をITの活用で解決できる仕組みです。日本

社運動のアイデアがあるんだと思います。

自転車をもって歩みを進めよう

司会 特化した活動というのですが、明社の特徴は全国ネットだということです。たとえばフードバンクのような取り組みも、全国明社のネットワークを巧に取り組んでいます。

を力に取り組んでいいからいいですわ

砂川 明社では、実際にどう活動をしていくのか、こういう形でやりなさい、ということを何もいつてないんですね。何でもいい、という感じです。これまた全国的な組織として非常に柔軟性がある、非常にいい運動だと思っています。しかも、それぞれの地域で、「明るい社会をつくる」いう役割を果たすために貢献してきてくださった方々がここまで明社運動を繋いできてくださいました。提唱者の考え方を自信をもって実践して進んでいくてよいのではな、よしやう。

司会 さまでまなこ意見とご提案をいただきました。なかでも、自己実現の場が明社ではないかといふご意見がありましたが、そう考えていきますと、ますますやり甲斐が出てきますね。

めて心に置いて、町おこしから人おこしへ繋げていける明社運動を展開できるよう、真摯しんしに取り組ませていただきたいと思います。

Meisha アーカイブ

～50年の歩み～

第1回

まく



合田 和正さん
(愛媛県四国中央市在住)

全国で最初に開催された「明るい社会づくり四国地区推進大会」(以下、四国地区推進大会)には、私ども松山市から地域の方々が、地元の有識者をお説いて300人で参加しました。当時は、日本国内は高度成長の真っただ中で、心より金や物という風潮がみなぎっていました。提唱者の庭野日敬師が、「物の世界と心の世界」と題した講演で、心の荒廃に対し、書道を喚らされ、多くの人の善意と奉仕活動を通じて明るい社会をつくっていきましょう」と力強く話されたのです。この提唱を聞いた松山市の有識者から、「うちの県でも推進大会をしよう」という声が上がり、3か月後の7月27日に松山市民会館で「明るい社会づくり運動のつだと考えていました。

募金で集まつた義援金の配分は、県におまかせすることになっていたので、県知事にお渡しし、各市町村を通じてお届けしていただきました。すると、県の方々が、「明社は、口だけじゃなくて実行しろ」と言つていただけたのです。みんなの善意が花開いたと思いました。

また、7回目の愛媛県推進大会に登壇された庭野師の「社会の平和は家族の平和から」という言葉に学んだ私は、愛媛県内に300余りある「愛媛班」(子どもたちを見守るグループ)に家庭教育のリーダーを育成したいと願うようになりました。各町内に家庭教育のリーダーを作りたかったのです。私も真剣でした。「走り使いはなんでもさせてもらいます」という意気込みで席んでいました。不思議と、約95を超えた今でも、当時のことはつい最近のことのように思いだせます。

来年は提唱50年のことです。人ひとの中に潜む善意の心に光をあて、よりよい社会づくり運動の展開に努めていきたいと思います。



清水 敬予さん
(愛媛県松山市在住)

覚えてます。いま、当時のことが頭の中によみがえってきて、心が燃えてくるのを実感しています。

印象に残っているのは、「ものの世界から心の世界へ」という提唱者、庭野日敬師の講演です。有識者のみなさんも心動かされ、書画くださる方の輪が広がつていったよう記憶しております。



全国で最初に開催された「明るい社会づくり四国地区推進大会」(香川県高松市)

明るい社会づくり運動は、昭和4年に福岡の「多くの人の善事と奉仕活動を通じて明るい社会をつくり」という提唱で「歩を踏み出しました」。

当時は、高度成長が頂点を迎えており、日本は経済大恐慌の道を歩んでいました。豊かになってしまった。使い捨て用具がもてはやされる反面、全国各地で公害が頻発し、人ひとの心が荒廃を思われる事件や事象が目立ちました。そうした社会風潮に、物を崇え、心を「ぶ近未来を読み取られた庭野師は、社会の「風を照らす心あるひととの連携を組織して、明るい社会づくりの実験を起」す」とにより、眞の平和社会をつくりたいと叫ばれたのです。

この機会を受けて、同年4月27日、全国で初めての明るい社会づくり推進大会が、香川県高松市で開催されました。そのためを皮切りに、関西、東北、奥羽、北海道などの地区で推進大会が開催されました。以来、全国各地で、地元に開催された地団な取り組みをしてきました。そして、来年は、振り返りながら50年を迎えます。今年では、全国をめぐらして、明るい社会づくりの実験を起す」という機運を振り返つていただきました。

くり運動愛媛県推進大会」(以下、愛媛県推進大会)を開催しました。

大会は、愛媛新聞、南海放送など地域の大手企業をはじめ、地域の方々20人が、運営として運営に携わってくださり、成功裏に終わりました。以来、毎年、開催するようにならため。そして、2回目の開催を前に「明るい社会をつくるための実践行動を起こそう」という意見が出て、被災者と災害避難のための「1口100円募金」を行いました。すると、賛同者が近隣の人や観光客に呼びかけてくれて、瞬く間に目標額に達成したのです。明社運動は、善意の心を聞かせ、善意の輪を広げていくよい機会だと思っています。目に見えないものを見る心を聞かせる……。何もしなければ気づくこともない」ととも、みんなと一緒に活動することや、「私は」「みんな」これができる自分なんだ」ということも気がつく機会にならうのだと思っています。私は、「こうした機会を提供する」とも、明るい社会



テーマで、愛媛県明るい社会づくり運動の講師として学校の教育現場や地域の婦人会、老人会から講師要請が入るようになり、家庭教育の普及に積極的に取り組むようになりました。提唱から50年の歳月が流れ、いまも各地域で東々と明社運動に携わられている方に頭が下がる思いであります。

私にとっても、地域の人たちと共に住みよい街づくりに取り組んだ体験は宝です。当時の感動を胸に置いて、これからも「胸を照らせるよう取り組ませていただきます。

知つてないところ」という私と明るい社会づくり運動に託してくださったことが本当にうれしく、感謝しました。

その後、第7回の愛媛県大会に提唱者がおいでくださいり、子どもを育むことの大切さをお話しされました。そのお話を受けて、「子どもたちにどうも、親御さんによるもの、家庭教育を学ぶことはとてもよかったです」とお考えになられた合田さんの顔で、私は小林謙策先生の家庭教育の講義を受けました。そして、「子供の心を



特定非営利活動法人
明るい社会づくり運動
「提唱50周年記念大会」のお知らせ

開催日：2019年4月27日(土)

会場：メルバル(東京)

(東京都渋谷区神宮)

*詳細は、今後、次第に次第「はーとふる」で発表いたします。

全国で最初に開催された四国地区推進大会に参加したとき、私は30代でした。当初は理解も浅かった明社運動ですが、大会でとても感動したこと